

令和7年度一関市観光審議会

日時：令和7年7月2日(水) 午後1時30分～3時

場所：一関市役所 3階 特別会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) 一関市観光振興計画の推進について

4 その他

5 閉 会

一関市観光振興計画（令和4年度～令和8年度）の目標指標と実績

本計画の 目標指標

令和元年度（2019年度）
 ・年間観光入込客数 約221万人回
 ・外国人観光入込客数 42,700人回
 ※参考指標 観光消費額 124億円

令和8年度（2026年度）目標値
 ・年間観光入込客数 221万人回
 ・外国人観光入込客数 42,700人回
 ※参考指標 観光消費額 124億円



	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
年間観光入込客数	2,620,525	2,210,690	1,409,039	1,541,138	1,896,368	2,246,969	2,225,332
伸び率		-15.6%	-36.3%	9.4%	23.0%	18.5%	-1.0%

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
外国人観光入込客数	25,194	42,785	399	525	6,951	56,370	60,183
伸び率		69.8%	-99.1%	31.6%	1224.0%	711.0%	6.8%

令和6年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和6年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
<p>1 平泉との連携強化による「いちのせき」の発信</p>	<p>①平泉と主要観光地をつなぐルートを生かした一関ブランドの発信</p> <p>②骨寺村荘園遺跡の活用や平泉とのゆかりを生かした観光振興</p> <p>③観光地域づくりと地域内経済循環の推進</p>	<p>(1)世界文化遺産「平泉」と市内観光地を結ぶ周遊観光ルートの定着と公共交通機関の利用促進</p> <p>(2)一関・平泉地域の特産品やもち食文化など特徴的な観光資源を活用した誘客事業の創出</p> <p>(3)骨寺荘園遺跡など平泉とのゆかりを生かした観光誘客の推進</p> <p>(4)一般社団法人世界遺産平泉・一関DMOや観光関連事業者などとの連携による観光地域づくりと地域内経済循環の推進</p>	<p>○観光地間二次交通整備事業費補助金</p> <p>【事業概要】 ・観光客の周遊化を図るため、平泉駅から親鼻溪間及び一ノ関駅から須川温泉間のバス運行事業に係る経費に対し補助した。</p> <p>【実施状況】 ・補助金交付件数 2件 ・平泉駅－親鼻溪間 火曜日運休 1日3往復 ▶補助金 4,400,000円 ・運行事業者 東勢交通株式会社 ▶運行期間 4月27日から11月4日まで ▶利用者数 1,195人（令和元年度 4,321人 ※1日4往復） ・一ノ関駅－須川温泉間 毎日運行 1日2往復 ▶補助金 4,500,000円 ▶運行事業者 岩手県交通株式会社 ▶運行期間 6月1日から10月31日まで ▶利用者数 3,634人（令和5年度 3,969人 ※1日2往復）</p>	<p>【成果・効果】 ・観光客の円滑な移動手段（利便性）を確保し、周遊観光を促進させ、滞在時間や交流人口の拡大を図った。 ・コロナ禍以降減少していた観光客の利用状況は回復傾向にあるものの、7月から9月の長雨による天候不良の影響もあり、利用者は、令和5年度と比較し、平泉・げいび溪線は1,403人、須川温泉線は335人減少した。 ・2路線とも、輸送車両（バス）にキャッシュレス端末を導入しており、特にも外国人利用客の利便性向上につながっている。</p> <p>【課題】 ・平泉・げいび溪線は、現状の利用人数では、費用対効果が見合わない。 ・2路線ともに赤字路線であり、市からの補助金がなければバス運行を継続することができない。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・周遊観光を促進するため、今後もバス路線の維持が必要と捉えている。利用実態の把握による運行形態の見直しやPR等により利用者の増に努める。</p>
			<p>○世界遺産連携推進実行委員会負担金</p> <p>【事業概要】 ・世界遺産を活用した一層の誘客促進を図ることを目的に事業を実施する「世界遺産連携推進実行委員会」に対する負担金</p> <p>【実施状況】 ・負担金 1,500,000円 ・主な事業 ▶世界遺産平泉エリアの観光コンテンツ魅力向上・周遊促進事業 ▶国内主要市場誘客事業 ▶国外主要市場誘客事業 ▶おもてなし向上セミナーの開催</p>	<p>【成果・効果】 ・平泉を中心にSNSを活用したキーワードラリーを実施することで、楽しみながら広域周遊観光を促進させることができた。 ・金色堂建立900年を迎えた中尊寺などの「世界遺産平泉」を広くPRし、首都圏や愛知県での観光PR及び仙台空港を利用する外国旅行者向けに多言語パンフレットを配架するなど誘客促進に努めた。 ・タイ人インフルエンサーを招聘し、管内観光地の周遊の様子をSNSで発信した。また、ミュージックビデオをYouTube等で配信することで、世界遺産平泉エリアの魅力向上を図った。</p> <p>【課題】 ・国内外からの誘客のため、首都圏や海外に向けた平泉世界遺産の更なる情報発信が必要である。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・平泉世界遺産祭を開催し、国内外観光客の誘客を図る。 ・滞在観光や周遊観光の実施に向けて、WEBやSNSを活用し情報発信の強化を図る。</p>
			<p>○骨寺村荘園遺跡保全活用事業費</p> <p>【事業概要】 ・骨寺村荘園遺跡の普及啓発及び伝統的な小區画水田や土水路等の保全活用に係る経費</p> <p>【実施状況】 ・事業費 1,490,493円（業務委託等）</p>	<p>【成果・効果】 ・パンフレットによる市内外への情報発信や小區画水田の田植え体験交流会などの開催を通じ、骨寺村荘園遺跡の価値発信や保全意識醸成に繋がった。</p> <p>【課題】 ・体験交流会などへの参加者確保を図るため、骨寺村荘園交流館を核とした情報発信と遺跡価値の普及浸透を継続して行う必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。</p>
			<p>○食と農の観光PR事業費</p> <p>【事業概要】 ・一関の伝統的食文化である「もち食文化」の普及・継承と「もち食」を活用した観光振興を図った。</p> <p>【実施状況】 ・事業費 4,728,443円（業務委託等） ・主な事業 ▶一関もち食推進会議の開催（年7回）（委託先：平泉・一関DMO） ▶もち本膳体験授業の実施（舞川小4～6年35人、大原小5～6年25人） ▶もちマイスター検定及びフォローアップ研修の実施（検定：14人、延202人、研修：15人、延100人）（委託先：平泉・一関DMO） ▶VTM（訪日旅行商談会）への参加PR（委託先：平泉・一関DMO）</p>	<p>【成果・効果】 ・特色ある「もち食文化」を観光資源として磨き上げ、市内外への周知に取り組んだことで、テレビや雑誌などメディアからの取材が増加してきている。 ・もち関連事業を通じて、当地方の「もち食文化」の伝承・普及が図られている。</p> <p>【課題】 ・もちマイスターの育成と活動機会の創出。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・「もち食」を活用した事業を展開し、「もちの聖地いちのせき」の認知拡大や関連産業の促進を図る。</p>
			<p>○一関地方物産振興協会負担金</p> <p>【事業概要】 ・一関地方の物産振興を図ることを目的に地場特産品生産者等で組織する団体の活動に対する負担金</p> <p>【実施状況】 ・負担金 54,000円 ・主な事業 ▶「第28回黄金の国陶芸展」の開催（千厩酒のくら交流施設） ▶一関地方物産振興協会ホームページでの情報発信</p>	<p>【成果・効果】 ・一関市と平泉町の物産事業者で構成する団体であり、一関市観光協会や世界遺産平泉・一関DMOとの連携により、物産振興が図られた。</p> <p>【課題】 ・高齢化等により会員の減少（退会）が進んでいる。 ・当地方の物産の魅力を伝える機会が不足している。 ・ものづくりや体験活動を通じた観光客の誘客に繋がっていない。</p> <p>【今後の方向性】 ・新たな特産品開発に向けた取組が必要である。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・担い手などの人材育成 ・国内外への販路拡大機会の創出 ・物産に関する課題解決に向けた研修等の実施 ・一関の物産と観光展でのPR強化</p>

令和6年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和6年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
<p>2 観光資源の活用と情報発信の充実</p>	<p>①地域資源の掘り起こしと活用 ②観光情報の充実 ③ニューツーリズムの推進 ④栗駒山、室根山、館ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用 ⑤誘客の推進 ⑥外国人に対する情報発信の強化</p>	<p>(1)観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出 (2)「食・農・観光」の連携による魅力の発信 (3)四季を通じた特色あるイベントの充実 (4)観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化 (5)体験型観光の強化による農家民泊、教育旅行等の誘致 (6)須川・真湯・祭時地区、室根山、館ヶ森エリアのアウトドア資源等を活用した観光誘客の推進 (7)観光キャンペーン等と連動したプロモーションの強化</p>	<p>○一関春まつり開催事業補助金 【事業概要】 ・一関地方の観光シーズンの幕開けイベントである「一関春まつり」を実施する実行委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月28日 ・会場 一関市大町（歩行者天国）</p>	<p>【成果・効果】 ・観光シーズンの幕開けイベントとして定着している。 ・開催に合わせて、市内各地域のイベントなどもPRし、観光客の誘客に繋がった。 【課題】 ・更なる誘客に向けて内容等を検討する必要がある。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・内容やPR方法など、魅力的な誘客イベントに向けた連携が必要である。</p>
			<p>○夏まつり開催事業費 【事業概要】 ・地域活性化と交流人口や関係人口の拡大を目的とした夏まつりの開催負担金 【実施状況】 ・一関夏まつり ▶広告料 462,000円 ▶負担金 8,400,000円 ▶開催日 8月2日から8月4日まで ・花泉夏まつり ▶負担金 1,000,000円 ▶開催日 8月10日 ・千厩夏まつり ▶負担金 800,000円 ▶開催日 7月27日（悪天候により開催中止） ・むろね七夕夏まつり ▶委託料 193,600円（警備） ▶負担金 350,000円 ▶開催日 7月6日 ・かわさき夏まつり花火大会 ▶委託料 1,168,200円（警備・会場設営） ▶負担金 3,442,000円 ▶開催日 8月16日</p>	<p>【成果・効果】 ・地域活性化や交流人口の拡大に繋がった。 【課題】 ・少子高齢化や担い手不足などが影響し、まつりの参加者（団体数）が減少傾向にある。 ・熱中症対策改正省令の施行（R7.6月）による熱中症対策が義務化されるなど、暑さ（熱中症）対策を講じたイベント運営が必須となっている。 ・一関市の観光イベントとして、市民へ参加を促すほか、観光客の誘客に向けた取組が必要である。 ・物価高騰の影響により、開催に係る経費が年々増額している。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・各地域の夏まつりの特色を生かし、多くの市民参加や観光誘客を目指す。</p>
			<p>○一ノ関駅前イルミネーション実行委員会負担金 【事業概要】 ・一ノ関駅周辺の活性化に資することを目的に事業を実施する一ノ関駅前イルミネーション実行委員会に対する負担金 【実施状況】 ・負担金 400,000円 ・期間 12月1日から1月31日まで ・会場 一ノ関駅西口駅前広場</p>	<p>【成果・効果】 ・一ノ関駅周辺の街頭装飾等により、一関市全体のイメージアップと、地域活性化に繋がっている。 ・当該事業は、世界遺産平泉の玄関口を彩る冬の風物詩として定着している。 ・点灯期間は、例年12月1日から翌年1月の「成人の日」までとなっていたが、令和6年度は1月31日まで延長し駅前の魅力向上に努めた。 【課題】 ・駅周辺の賑わいを取り戻す事業として、JR利用者を中心に好評を得ているが、使用する電飾の消耗による更新、各種イベントでのイルミネーションの利活用等の工夫が必要である。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・駅周辺や商店街の活性化、にぎわいの創出を目指す。</p>
			<p>○一関・平泉バルーンフェスティバル事業費 【事業概要】 ・一関・平泉バルーンフェスティバルの開催により、当地方の観光PRや誘客促進など地域振興を図った。 【実施状況】 ・負担金 10,000,000円 ・開催日 10月11日から10月13日まで ・会場 一関水辺プラザほか ・観客者数 105,000人（平成30年度 120,000人） ・イベント会場来場者数 11,520人（平成30年度 16,500人）</p>	<p>【成果・効果】 ・開催を通じて当地方を全国に情報発信するとともに、にぎわいの創出、地域経済の活性化に繋がった。 ・第13回全国もちフェスティバル2024と併催したことで、多くの観覧に繋がった。（前年比：115%） 【課題】 ・熱気球は天候に左右されやすく、観光資源として活用するためには、係留体験搭乗会以外のコンテンツ（熱気球教室など）の充実が必要である。 ・競技飛行以外の集客に向けて開催内容の工夫が必要である。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・滞在型観光を促進するほか、関係人口や交流人口の増加により地域経済の活性化を図る。</p>

令和6年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和6年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
2 観光資源の活用と情報発信の充実	①地域資源の掘り起こしと活用 ②観光情報の充実 ③ニューツーリズムの推進 ④栗駒山、室根山、館ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用 ⑤誘客の推進 ⑥外国人に対する情報発信の強化	(1)観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出 (2)「食・農・観光」の連携による魅力の発信 (3)四季を通じた特色あるイベントの充実 (4)観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化 (5)体験型観光の強化による農家民泊、教育旅行等の誘致 (6)須川・真湯・祭時地区、室根山、館ヶ森エリアのアウトドア資源等を活用した観光誘客の推進 (7)観光キャンペーン等と連動したプロモーションの強化	<p>○地ビールフェスティバル開催補助金</p> <p>【事業概要】 ・全国の地ビールを活用したイベントを開催することで一関をPRするとともに、地場産業の発展と地域活性化を図った。</p> <p>【実施状況】 ・補助金 2,500,000円 ・開催日 8月23日から8月25日まで ・会場 一関文化センター前広場及びびー関図書館1階駐車場 ・来場者数 36,361人（令和元年度 33,055人） ・参考 ビール販売数量 11,113リットル イベント会場内使用金額 237,473,691円 交通費・宿泊費消費額 276,160,922円 計 513,634,613円</p>	<p>【成果・効果】 ・本イベントは、全国各地からの来場者が多く、市内の交通・宿泊・飲食・観光など、地域経済へ好循環をもたらすイベントとして定着している。</p> <p>【課題】 ・開催会場が制限され、出店等の配置に苦慮している。 ・屋外イベントで天候等の影響を受けやすく、事業収支を安定確保する必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・地場産品を使用した「おつまみ」の提供や家族で楽しめる魅力的なイベントを開催することで、地域経済の活性化を図る。</p>
			<p>○全国もちフェスティバル開催補助金</p> <p>【事業概要】 ・一関の伝統的食文化である「もち食文化」を全国に向けて発信し、交流人口の拡大、地域経済の活性化を図ることを目的に全国もちフェスティバル実行委員会が実施する事業に対し補助した。</p> <p>【実施状況】 ・補助金 4,500,000円 ・開催日 10月12日から13日まで （スタンプラリーイベント：10月10日～11月30日） ・会場 一関ヒロセユードーム健康広場・ロータリー特設会場 ・出店数 19店舗（スタンプラリー参加店 16店舗） ・来場者数 17,991人（平成30年度 24,366人） ・提供食数 19,562食</p>	<p>【成果・効果】 ・もち食文化の魅力や体験機会を提供することで地域活性化が図られた。 ・特産品を活用したスタンプラリーイベントを同時開催したことで、飲食店への集客及び街なかの閑遊促進に繋がった。 ・もち食のPRと販売を促進し、食と観光産業の連携を図った。</p> <p>【課題】 ・開催目的、手段、効果について検討し、今後のイベントのあり方を工夫する必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・一関・平泉地域のにぎわいを創出するとともに、「もち食文化」の魅力を国内外に向けて発信し、当地域のPRや関連産業の発展、活性化を図る。 ・フードフェスだけではなく、一関のもち食文化を体験できるイベントとして工夫する。</p>
			<p>○大東大原水かけ祭り保存会事業費補助金</p> <p>【事業概要】 ・伝統行事「一関市・大東大原水かけ祭り」の運営、管理、保存を目的に一関市・大東大原水かけ祭り保存会が実施する事業に対し補助した。</p> <p>【実施状況】 ・補助金 2,250,000円 ・開催日 2月11日 ・会場 大東町大原地内（市道大原水かけ祭り線） ・参加者数 179人（令和元年度 273人） ・来場者数 13,600人（令和元年度 28,000人）</p>	<p>【成果・効果】 ・悪天候で集客数は減少したが、視男へ水かけ（清め水）する通常開催となり、にぎわいの回復に繋がった。また来場者からは「毎年楽しみに来ている。」「また参加したい。」との声が寄せられた。</p> <p>【課題】 ・少子高齢化と市中心部への人口流出により、地元の従事者、参加者が減少している。また、特定の地元住民・関係者への負担が大きいことから、運営体制等を見直したが、持続可能な祭りに向けた検討が必要である。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。</p>
			<p>○水晶あんどん祭り事業費補助金</p> <p>【事業概要】 ・伝統行事「置沢水晶あんどん祭り」の運営を目的に水晶あんどん祭り実行委員会が実施する事業に対し補助した。</p> <p>【実施状況】 ・補助金 360,000円 ・開催日 8月13日から8月15日まで ・会場 大東町置沢地内 ・参加者数 延べ210人（令和元年度 300人） ・入出数 延べ2,300人（令和元年度 3,800人）</p>	<p>【成果・効果】 ・幅広い年代から出品された「あんどん絵」が商店街の沿道に飾られ、道行く人々の心を和ませている。</p> <p>【課題】 ・あんどん製作には相応の技術と手間が必要で、少子高齢化の進行により従事者の減少が心配される。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。</p>
			<p>○せんまやあたご光の広場事業費補助金</p> <p>【事業概要】 ・商店街への集客及び地域づくりの活性化を目的に、せんまやあたご光の広場実行委員会が実施する事業に対し補助した。</p> <p>【実施状況】 ・補助金 50,000円 ・期間 12月27日から1月15日まで ・会場 愛宕児童公園</p>	<p>【成果・効果】 ・公園内に電飾約7,000個を設置し、地域住民などに楽しむ場を提供した。</p> <p>・電飾した愛宕児童公園は、千趣商店街の西側にあり、普段から子どもたちや家族連れでにぎわう公園であり、多くの人が楽しんだ。 ・地域住民の交流が図られ、商店街のにぎわいや地域活性化に繋がった。</p> <p>【課題】 ・設置作業人数の減少が心配される。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。</p>

令和6年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和6年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
2 観光資源の活用と情報発信の充実	①地域資源の掘り起こしと活用 ②観光情報の充実 ③ニューツーリズムの推進 ④栗駒山、室根山、館ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用 ⑤誘客の推進 ⑥外国人に対する情報発信の強化	(1)観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出 (2)「食・農・観光」の連携による魅力の発信 (3)四季を通じた特色あるイベントの充実 (4)観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化 (5)体験型観光の強化による農家民泊、教育旅行等の誘致 (6)須川・真湯・祭時地区、室根山、館ヶ森エリアのアウトドア資源等を活用した観光誘客の推進 (7)観光キャンペーン等と連動したプロモーションの強化	<p>○唐梅館絵巻実行委員会補助金 【事業概要】 ・約400年前の軍議を再現し地域活性化を図ることを目的に唐梅館絵巻実行委員会が実施する事業に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 5,500,000円 ・開催日 9月29日 ・会場 唐梅館総合公園 ・来場者数 10,000人(令和元年度 16,500人)</p> <p>○むろね産業文化祭実行委員会負担金 【事業概要】 ・室根地域の産業、交通防災、保健、文化活動などの成果が一堂に会するむろね産業文化祭の開催に対する負担金 【実施状況】 ・負担金 820,000円 ・開催日 11月9日から11月10日まで ・会場 室根体育館、室根テニスコート ・来場者数 3,000人(令和元年度 4,000人) ・主な事業 友好都市等物産展、一関市物産展、芸術文化展、農産物品評会など</p> <p>○藤沢野焼祭開催負担金 【事業概要】 ・縄文時代の焼成方法「野焼き」を用いた土と炎の祭典「藤沢野焼祭」の開催に対する負担金 【実施状況】 ・負担金 1,000,000円 ・開催日 8月10日から11日まで ・会場 藤沢運動広場 ・参加者数 4,500人(令和元年度 8,000人) ・参加作品数 721点(令和元年度 785点)</p> <p>○第10回記念館ヶ森ごっつおマラソン事業補助金 【事業概要】 ・エコー館ヶ森が行う館ヶ森ごっつおマラソン事業の10周年記念行事に要する経費に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 500,000円(令和6年度限り) ・開催日 令和7年2月8日 ・会場 花と泉の公園～館ヶ森高原ホテル間 ・参加者数 346人(令和元年度 104人)</p> <p>○食と農の観光PR事業費(再掲) 【事業概要】 ・一関の伝統的食文化である「もち食文化」の普及・継承と「もち食」を活用した観光振興を図った。 【実施状況】 ・事業費 4,728,443円(業務委託等) ・主な事業 ▶一関もち食推進会議の開催(年7回)(委託先:平泉・一関DMO) ▶もち本膳体験授業の実施(舞川小4～6年35人、大原小5～6年25人) ▶もちマイスター検定及びフォローアップ研修の実施(検定:14人、延202人、研修:15人、延100人)(委託先:平泉・一関DMO) ▶VJTM(訪日旅行商談会)への参加PR(委託先:平泉・一関DMO)</p>	<p>【成果・効果】 ・知名度がある俳優を総人将役としたため、来場者が10,000人となり、令和5年度と比較して3,000人増加した。 【課題】 ・行列、手踊りへの参加者の確保に苦慮している。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・関係者と協議しながら、イベント内容を検討する。</p> <p>【成果・効果】 ・農産物品評会や各種団体の活動展示、地場産品や根室市や吉川市など友好交流都市からの特産品の販売、芸能発表会など多くの分野での振興発展を図った。 ・昨年度に引き続き「ミニチュア版曲ろくの花づくり」や「太鼓職人さん」とつくるダンボール和太鼓、「鹿の角クラフトコーナー」などの体験型イベントを実施。令和6年度の特別展として、室根出身カメラマン遠藤凌平氏の写真教室と併せ、市内のゆるキャラとの写真撮影会を開催し好評を得た。 【課題】 ・農産物品評会など農林部門で高齢化や後継者不足により出品数が減少し継続が難しくなっている。 【今後の方向性】 ・継続実施。(但し、集客につながるイベント内容を検討する。)</p> <p>【成果・効果】 ・実行委員会の継続的な取組により、全国各地からの来場者が多く、市内の交通・宿泊・飲食・観光など、地域経済へ好影響をもたらすイベントとして定着している。 【課題】 ・参加作品を増やすことが課題である。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・地域の特色を生かし、より多くの参加や観光客の誘客を目指す。 ・課題の検討を進め、工夫しながら運営する。</p> <p>【成果・効果】 ・花と泉の公園をスタートし、岩手サファリパーク、Ark館ヶ森を経由し館ヶ森高原ホテルをゴールとしたマラソン大会。 ・藤沢花泉地域の冬場の集客、観光振興、地域商店の活性化、知名度の向上、体力の向上が図られている。 【課題】 ・参加者を増やすため、大会内容の検証や改善が必要である。 【今後の方向性】 ・大会補助金は周年行事に限る。</p> <p>【成果・効果】 ・特色ある「もち食文化」を観光資源として磨き上げ、市内外への周知に取り組んだことで、テレビや雑誌などメディアからの取材が増加してきている。 ・もち関連事業を通じて、当地方の「もち食文化」の伝承・普及が図られている。 【課題】 ・もちマイスターの育成と活動機会の創出。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・「もち食」を活用した事業を展開し、「もちの聖地いちのせき」の認知拡大や関連産業の促進を図る。</p>

令和6年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和6年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
<p>2 観光資源の活用と情報発信の充実</p>	<p>①地域資源の掘り起こしと活用 ②観光情報の充実 ③ニューツーリズムの推進 ④栗駒山、室根山、館ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用 ⑤誘客の推進 ⑥外国人に対する情報発信の強化</p>	<p>(1)観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出 (2)「食・農・観光」の連携による魅力の発信 (3)四季を通じた特色あるイベントの充実 (4)観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化</p>	<p>○観光振興事業費 【事業概要】 ・観光パンフレットや広告、各種情報発信等の充実を図り、当市への誘客を促進した。 【実施状況】 ・観光パンフレット等印刷 5,719,340円 ・各種宣伝広告（広告看板等の掲載）2,553,144円 ・仙台圏等観光情報発信業務委託 2,110,000円 ・観光ホームページシステム保守業務等委託 330,000円 ほか</p>	<p>【成果・効果】 ・パンフレットを県内外の観光施設等へ配架し、当市をPRしている。 ・インバウンド向けパンフレットとして英語と中国語のパンフレットを作成した。 ・仙台圏等観光情報発信業務は、WEBメディアを活用したプロモーションや、宿泊クーポンの発行により、観光客の増加に繋がった。 【課題】 ・パンフレットやHPに掲載する観光情報内容の更新が必要である。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・各種媒体を活用しながら魅力的な観光情報を発信し、観光客の誘客を促進する。</p>
			<p>○伊達な広域観光推進協議会負担金 【事業概要】 ・地域や県境を越えた連携を強め、観光地の魅力向上と観光需要の拡大を図ることを目的とする伊達な広域観光推進協議会に対する負担金 【実施状況】 ・負担金 750,000円 ・主な事業 ▶教育旅行誘致事業 （旅行代理店等へのセールス活動、学校教職員等を対象としたモニターツアー招請、セールスツール等作成） ▶広報・PR事業（ホームページ運営等） ▶周遊促進事業（一般旅行誘客に向けた取組）は事業内容を見直し、令和7年度実施とした。</p>	<p>【成果・効果】 ・宮城県・岩手県・山形県5市4町の行政、商工及び観光関係団体が連携し、広域的な観光客の誘致宣伝事業や観光客の受入事業などの施策を展開している。 ・北海道、関東、中部、関西の旅行代理店や学校を訪問するセールスマネーターツアーの実施により、当エリアへの教育旅行の誘致に繋がった。 【課題】 ・近隣の登米市及び栗原市が加入しておらず、広域事業の展開（例：大人数の農泊の受入など）が難しい。 ・アフターコロナによる旅行形態の変化に伴い、多様化する「観光」へのニーズと協議会の今後の在り方（持続可能な活動の方向性など）を検討する必要がある。 ・これまでの事業展開や最近の情勢を検証・分析し、誘客が見込まれる地域へのPR活動が必要である。 ・令和7年3月31日をもって協議会構成団体から塩竈市、塩竈市観光物産協会、塩釜商工会議所が脱退した。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・スケールメリットを生かした教育旅行の誘致に期待できる。</p>
			<p>○いわて観光キャンペーン協議会負担金 【事業概要】 ・観光に関わる事業者や県・自治体が連携しながら全国に向けて情報発信し、交流人口の拡大など、観光を通じて地域活性化を促進することを目的とする負担金 【実施状況】 ・負担金 410,000円 ・主な事業 ▶岩手県のJ R東日本重点販売地域指定に併せた秋季観光キャンペーン（令和6年10月～12月）の展開。 ▶J Rグループ6社の月別重点宣伝地域指定と連携したプロモーションの展開。 ▶広報媒体や各種イベント等による情報発信や、民間企業と連携した周遊促進事業などの宣伝誘客事業の実施。 ▶冬季観光キャンペーン（令和7年1月～3月）の展開による宣伝誘客事業（冬季誘客拡大支援）や受入態勢整備事業の実施。</p>	<p>【成果・効果】 ・官民一体となった「オール岩手」で誘客拡大を図り、J R東日本と連携した観光キャンペーンを実施し、当市の観光PRに寄与している。 【課題】 ・県全体へ観光客の周遊を促進させる取組を継続する必要がある。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・令和7年度秋季（令和7年9月～11月）に、岩手県がJ R東日本の「重点共創エリア」に指定された。J R東日本と連携した観光キャンペーンの実施が計画され、当市への誘客促進も見込まれる。 ・令和6年の「重点共創地域」では首都圏等の旅行者の誘客に注力していたが、「重点共創エリア」ではターゲットを拡充し、インバウンドも視野に入れたプロモーションが展開される。また、J R東日本だけでなくとどまらず、国内J R旅客6社（北海道、東日本、東海、西日本、四国、九州）での共創プロモーションが予定されている。</p>
<p>○岩手県観光協会負担金 【事業概要】 ・岩手県の観光宣伝、国際観光の推進等により観光振興を図り、地域活性化と県民生活の向上発展への寄与を目的とする協会への負担金 【実施状況】 ・負担金 1,557,000円 ・主な事業 ▶観光情報の発信（いわて旅の地図更新・増刷・配布ほか） ▶国内観光客の誘致促進（東京・大阪・名古屋での観光客誘致説明会開催、エージェント招待対応、北海道・東京・大阪での教育旅行誘致説明会開催ほか） ▶国際観光の推進（台湾・タイ旅行博への参加、海外商談会へのオンライン参加、国際航空便歓迎行事の実施、外国人観光客案内ほか） ▶受入態勢の整備（いわて観光おもてなしセンター設置、観光人材の育成ほか）</p>	<p>【成果・効果】 ・県や県内市町村、観光関係団体等が連携して県内観光の魅力PRした。 ・岩手県観光協会は令和7年3月に県全域を対象とした観光地域づくりを担う登録DMO（観光地域づくり法人）として、観光庁から登録された。 【課題】 ・令和6年の本県の延べ宿泊者数は、前年に比べ約3.5%微減の約565万人泊となり、コロナ禍前の令和元年比の約9割まで回復した。外国人延べ宿泊者数38.3万人と前年比35%増、令和元年比の11%増となり、大きく増加した。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・当該団体は、本県観光産業の中心的役割を担う団体であり、継続加入することで当市への誘客拡大に期待できる。</p>			

令和6年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和6年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
2 観光資源の活用と情報発信の充実	<p>①地域資源の掘り起こしと活用</p> <p>②観光情報の充実</p> <p>③ニューツーリズムの推進</p> <p>④栗駒山、室根山、館ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用</p> <p>⑤誘客の推進</p> <p>⑥外国人に対する情報発信の強化</p>	<p>(1)観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出</p> <p>(2)「食・農・観光」の連携による魅力の発信</p> <p>(3)四季を通じた特色あるイベントの充実</p> <p>(4)観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化</p>	<p>○温泉利用シルバー割引事業補助金</p> <p>【事業概要】 ・市内観光（マイクロツーリズム）の推進と温泉施設の利用促進を図るため、一関温泉郷協議会が実施する65歳以上の市民を対象にした割引事業に要する経費に対し補助した。</p> <p>【実施状況】 ・対象者 65歳以上の一関市民 15,000人 ・補助金 2,250,000円（150円／人） ・対象施設 一関温泉郷協議会 構成6施設 ・対象期間 6月1日～令和7年2月28日</p> <p>○冬季観光コンテンツ造成補助金</p> <p>【事業概要】 ・冬の魅力を生かした観光客の誘致促進を図るため、観光関連事業者が取り組む冬季の観光コンテンツ造成に要する経費を補助した。</p> <p>【実施状況】 ・対象 3団体 事業費855,467円 ・補助金 427,000円 ・主な事業 ▶もち学校及び古民家宿泊事業（網イートープ東北） ▶冬期大船渡線活用インバウンド誘客事業（（一社）一関市観光協会） ▶もちマイスター講演ともち搦き体験&試食モニタープラン（（一社）世界遺産平泉・一関DMO）</p>	<p>【成果・効果】 ・市外の入浴客や新たな入浴客を市内温泉施設に留めることで対象施設の日帰り入浴客数が前年比で2,765人13.3%増加した。 ・高齢福祉の観点から利用者増加による健康増進に寄与できた。</p> <p>【課題】 ・広報紙や新聞等により制度を周知したが、当初の利用率が思うように伸びず、PRについて不十分な点があった。</p> <p>【今後の方向性】 ・令和7年度までの事業とし、様々な媒体を活用しながら制度の周知を図り、市民の温泉施設の利用を通じたマイクロツーリズムを促す。</p> <p>【成果・効果】 ・冬季間の観光入込客数の増加に繋がった。 ・新たな冬季観光商品の開発により、冬季間の観光誘客に繋がる。</p> <p>【課題】 ・開発したコンテンツの継続実施と新たな開発が必要である。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・開発した冬季観光コンテンツの展開と新たな冬季観光コンテンツの開発を奨励する。</p>
3 受け入れ態勢の整備	<p>①おもてなし意識の醸成とガイドの確保</p> <p>②観光施設、公共施設等の受入環境の整備</p> <p>③観光ルートの整備</p> <p>④二次交通網の構築</p>	<p>(1)研修会等によるおもてなし意識の醸成</p> <p>(2)観光ガイドの養成や組織の育成支援等による受入態勢の充実</p> <p>(3)統一した案内標識の導入やWi-Fi環境の拡大等による受入環境の整備</p> <p>(4)スケールメリットを生かした観光ルートの整備・向上</p> <p>(5)二次交通網の構築</p>	<p>○観光客おもてなし向上セミナー開催</p> <p>【事業概要】 ・世界遺産連携推進実行委員会の事業として、一関市観光協会や一関商工会議所、平泉町・奥州市と連携し、観光事業者等を対象としたセミナーを実施した。</p> <p>【実施状況】 ・事業費 148,690円（世界遺産連携推進実行委員会より支出） ・開催日 3月21日 ・参加者 23名 ・内容 みちのく潮風トレイルの概要、受入環境整備事業の取組内容</p> <p>○観光ガイド事業費</p> <p>【事業概要】 ・外国人に対する英語や中国語での観光案内業務委託と一ノ関駅構内での観光案内業務委託を実施した。</p> <p>【実施状況】 ・外国人に対する観光案内業務（（一社）一関市観光協会） ▶委託料 4,684,000円 ▶案内実績 3,103人回、1,913件（令和元年度 889人回、2,045件） ・一ノ関駅構内における観光案内業務（いわいの里ガイドの会） ▶委託料 965,000円 ▶開設期間 4月20日から11月4日まで ▶案内実績 150日 9,320件（令和元年度 156日、5,311件）</p> <p>○観光ボランティアガイド団体補助金</p> <p>【事業概要】 ・観光ボランティアガイドの運営に対し補助した。</p> <p>【実施状況】 ・補助金交付件数 2件 ・補助金 282,000円 ・交付団体 ▶いわいの里ガイドの会 237,000円 ▶観光交流ネット千蔵 45,000円</p>	<p>【成果・効果】 ・増加するインバウンド観光客の受け入れ体制に必要な知識や方法などを学ぶことを目的に実施した。</p> <p>【課題】 ・地域全体で外国人観光客の視点に立ったおもてなしの機運醸成を図る必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・令和7年度も、世界遺産連携推進実行委員会事業としてセミナーを開催する。</p> <p>【成果・効果】 ・岩手県南の玄関口としてきめ細やかなサービスを提供することで、観光客の満足度アップに繋がった。 ・英語・中国語を話せるスタッフを観光案内所に配置することで、インバウンド誘客にも繋がっている。</p> <p>【課題】 ・さらなるインバウンド観光客の誘客に向け、情報発信を積極的に行うことが必要である。 ・観光ガイド人材の育成と確保が必要とされる。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・リピーターに繋がるように観光客へのより一層のきめ細やかな観光案内を図る。</p> <p>【成果・効果】 ・各種イベントへの協力や出前講座での講演、自主研修等の実施を支援することで、新たな観光資源の発掘やPRに繋がった。</p> <p>【課題】 ・引き続きガイド人材を養成し、受け入れ態勢のサポートや組織強化を図ることが必要である。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・ボランティアガイド団体への新規会員の加入増加を目指す。</p>

令和6年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和6年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
3 受け入れ態勢の整備	<p>観光振興戦略</p> <p>①おもてなし意識の醸成とガイドの確保</p> <p>②観光施設、公共施設等の受入環境の整備</p> <p>③観光ルートの整備</p> <p>④二次交通網の構築</p>	<p>(1)研修会等によるおもてなし意識の醸成</p> <p>(2)観光ガイドの養成や組織の育成支援等による受入態勢の充実</p> <p>(3)統一した案内標識の導入やWi-Fi環境の拡大等による受入環境の整備</p> <p>(4)スケールメリットを生かした観光ルートの整備・向上</p> <p>(5)二次交通網の構築</p>	<p>○観光地間二次交通整備事業費補助金（再掲）</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光客の周遊化を図るため、平泉駅から親鼻溪間及び一ノ関駅から須川温泉間のバス運行事業に係る経費に対し補助した。 <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助金交付件数 2件 平泉駅－親鼻溪間 火曜日運休 1日3往復 ▶補助金 4,400,000円 ▶運行事業者 東磐交通株式会社 ▶運行期間 4月27日から11月4日まで ▶利用者数 1,195人（令和元年度 4,321人 ※1日4往復） 一ノ関駅－須川温泉間 毎日運行 1日2往復 ▶補助金 4,500,000円 ▶運行事業者 岩手県交通株式会社 ▶運行期間 6月1日から10月31日まで ▶利用者数 3,634人（令和5年度 3,969人 ※1日2往復） 	<p>【成果・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光客の円滑な移動手段（利便性）を確保し、周遊観光を促進させ、滞在時間や交流人口の拡大を図った。 コロナ禍以降減少していた観光客の利用状況は回復傾向にあるものの、7月から9月の長雨による天候不良の影響もあり、利用者は、令和5年度と比較し、平泉・げいび溪間は1,403人、須川温泉線は335人減少した。 2路線とも、輸送車両（バス）にキャッシュレス端末を導入しており、特にも外国人利用客の利便性向上につながっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平泉・げいび溪間は、現状の利用人数では、費用対効果が見合わない。 2路線ともに赤字路線であり、市からの補助金がなければバス運行を継続することができない。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続実施 周遊観光を促進するため、今後もバス路線の維持が必要と捉えている。利用実態の把握による運行形態の見直しやPR等により利用者の増に努める。
4 広域連携の推進	<p>①近隣市町村や関係市町村との連携</p> <p>②地域資源の相互利用</p>	<p>(1)県境を越えた近隣市町村との連携の強化</p> <p>(2)姉妹都市、友好都市との交流の推進</p> <p>(3)広域的な周遊観光の創出による滞在型観光の促進</p>	<p>○広域連携推進事業費</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 湯沢市、栗原市、東成瀬村と連携し広域での観光振興を図るため、栗駒山麓鑑光写真コンクール、紅葉時期の渋滞対策等を実施した。 <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業費 1,737,725円 主な事業 ▶栗駒山麓鑑光写真コンクール <ul style="list-style-type: none"> 応募期間 令和6年11月15日から12月15日まで 応募総数 127作品（令和5年度：81作品） ※令和6年度から、幅広い世代に参加いただき応募数を増やすため、フォトコンテストサイト「Camecon（カメコン）」を活用したSNS写真コンクールに変更して開催した。 <p>○世界遺産連携推進実行委員会負担金（再掲）</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界遺産を活用した一層の誘客促進を図ることを目的に事業を実施する「世界遺産連携推進実行委員会」に対する負担金 <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 負担金 1,500,000円 主な事業 ▶世界遺産平泉エリアの観光コンテンツ魅力向上・周遊促進事業 ▶国内主要市場誘客事業 ▶国外主要市場誘客事業 ▶おもてなし向上セミナーの開催 <p>○伊達な広域観光推進協議会負担金（再掲）</p> <p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域や県境を越えた連携を強め、観光地の魅力向上と観光需要の拡大を図ることを目的とする伊達な広域観光推進協議会に対する負担金 <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 負担金 750,000円 主な事業 ▶教育旅行誘致事業（旅行代理店等へのセールス活動、学校教職員等を対象としたモニターツアー招聘、セールスツール等作成） ▶広報・PR事業（ホームページ運営等） ▶周遊促進事業（一般旅行誘客に向けた取組）は事業内容を見直し、令和7年度実施とした。 	<p>【成果・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 栗駒山にまたがる4市村で連携事業を実施することで、魅力的な周遊型観光の促進に繋がっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> さらなる誘客の促進を図るため、事業内容を見直すなど工夫が必要である。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続実施。 今後も事業内容を見直し、若者などが気軽に参加しやすいSNSを活用したフォトコンテストとして開催する。 令和7年度から2年間、東成瀬村が幹事自治体となる。 <p>【成果・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平泉を中心にSNSを活用したキーワードラリーを実施することで、楽しみながら広域周遊観光を促進させることができた。 金色堂建立900年を迎えた中尊寺などの「世界遺産平泉」を広くPRし、首都圏や愛知県での観光PR及び仙台空港を利用する外国旅行者向けに多言語パンフレットを配架するなど誘客促進に努めた。 タイ人インフルエンサーを招聘し、管内観光地の周遊の様子をSNSで発信した。また、ミュージックビデオをYouTube等で配信することで、世界遺産平泉エリアの魅力向上を図った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外からの誘客のため、首都圏や海外に向けた平泉世界遺産の更なる情報発信が必要である。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続実施。 平泉世界遺産祭を開催し、国内外観光客の誘客を図る。 滞在観光や周遊観光の実施に向けて、WEBやSNSを活用し情報発信の強化を図る。 <p>【成果・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮城県・岩手県・山形県5市4町の行政、商工及び観光関係団体が連携し、広域的な観光客の誘致宣伝事業や観光客の受入事業などの施策を展開している。 北海道、関東、中部、関西の旅行代理店や学校を訪問するセールスマネーターの実施により、当エリアへの教育旅行の誘致に繋がった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣の登米市及び栗原市が加入しておらず、広域事業の展開（例：大人数の農泊の受入など）が難しい。 アフターコロナによる旅行形態の変化に伴い、多様化する「観光」へのニーズと協議会の今後の在り方（持続可能な活動の方向性など）を検討する必要がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの事業展開や最近の情勢を検証・分析し、誘客が見込まれる地域へのPR活動が必要である。 令和7年3月31日をもって協議会構成団体から塩竈市、塩竈市観光物産協会、塩釜商工会議所が脱退した。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続実施。 スケールメリットを生かした教育旅行の誘致に期待できる。

令和6年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和6年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
<p>4 広域連携の推進</p>	<p>①近隣市町村や関係市町村との連携 ②地域資源の相互利用</p>	<p>(1)県境を越えた近隣市町村との連携の強化 (2)姉妹都市、友好都市との交流の推進 (3)広域的な周遊観光の創出による滞在型観光の促進</p>	<p>○いわて観光キャンペーン協議会負担金（再掲） 【事業概要】 ・観光に関わる事業者や県・自治体が連携しながら全国に向けて情報発信し、交流人口の拡大など、観光を通じて地域活性化を促進することを目的とする負担金 【実施状況】 ・負担金 410,000円 ・主な事業 ▶岩手県のＪＲ東日本重点販売地域指定に併せた秋季観光キャンペーン（令和6年10月～12月）の展開。 ▶ＪＲグループ6社の月別重点宣伝地域指定と連携したプロモーションの展開。 ▶広報媒体や各種イベント等による情報発信や、民間企業と連携した周遊促進事業などの宣伝誘客事業の実施。 ▶冬季観光キャンペーン（令和7年1月～3月）の展開による宣伝誘客事業（冬季誘客拡大支援）や受入態勢整備事業の実施。</p>	<p>【成果・効果】 ・官民一体となった「オール岩手」で誘客拡大を図り、ＪＲ東日本と連携した観光キャンペーンを実施し、当市の観光PRに寄与している。 【課題】 ・県全体へ観光客の周遊を促進させる取組を継続する必要がある。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・令和7年度秋季（令和7年9月～11月）に、岩手県がＪＲ東日本の「重点共創エリア」に指定された。ＪＲ東日本と連携した観光キャンペーンの実施が計画され、当市への誘客促進も見込まれる。 ・令和6年の「重点販売地域」では首都圏等の旅行者の誘客に注力していたが、「重点共創エリア」ではターゲットを拡充し、インバウンドも視野に入れたプロモーションが展開される。また、ＪＲ東日本だけでなく、国内ＪＲ旅客6社（北海道、東日本、東海、西日本、四国、九州）での共創プロモーションが予定されている。</p>
			<p>○岩手県観光協会負担金（再掲） 【事業概要】 ・岩手県の観光宣伝、国際観光の推進等により観光振興を図り、地域活性化と県民生活の向上発展への寄与を目的とする協会への負担金 【実施状況】 ・負担金 1,557,000円 ・主な事業 ▶観光情報の発信（いわて旅の地図更新・増刷・配布ほか） ▶国内観光客の誘致促進（東京・大阪・名古屋での観光客誘致説明会開催、エージェント招待対応、北海道・東京・大阪での教育旅行誘致説明会開催ほか） ▶国際観光の推進（台湾・タイ旅行博への参加、海外商談会へのオンライン参加、国際航空便歓迎行事の実施、外国人観光客案内ほか） ▶受入態勢の整備（いわて観光おもてなしセンター設置、観光人材の育成ほか）</p>	<p>【成果・効果】 ・県や県内市町村、観光関係団体等が連携して県内観光の魅力をPRした。 ・岩手県観光協会は令和7年3月に県全域を対象とした観光地域づくりを担う登録DMO（観光地域づくり法人）として、観光庁から登録された。 【課題】 ・令和6年の本県の延べ宿泊者数は、前年に比べ約3.5%微減の約565万人泊となり、コロナ禍前の令和元年度比の約9割まで回復した。外国人延べ宿泊者数38.3万人と前年比35%増、令和元年度比の11%増となり、大きく増加した。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・当該団体は、本県観光産業の中心的役割を担う団体であり、継続加入することで当市への誘客拡大に期待できる。</p>
			<p>○一関の物産と観光展開催負担金 【事業概要】 ・地場特産品生産者団体の活動支援とともに、首都圏等における物産と観光展開催に係る負担金 【実施状況】 ・負担金 4,392,000円 ・主な事業 「としま商人まつり」「大塚商人まつり」等へのPR出店 一関 10回 花泉 1回 大東 0回 千厩 1回 東山 1回 室根 1回 川崎 2回 藤沢 3回 ▶開催数 計19回（令和元年度 計22回） ▶出店者数 延べ66団体（令和元年度 延べ100団体） ▶売上 約18,702千円（令和元年度 約20,470千円）</p>	<p>【成果・効果】 ・首都圏等で一関市の特産品・農産物の宣伝や販売、観光PRをすることにより、一関市のイメージアップや交流人口の拡大、事業者の収入確保、販路拡大に繋がった。 【課題】 ・合併前の旧市町村（各地域）と開催都市との交流が続く中、開催のあり方を見直すことが困難である（交流を止められない）。 ・運営団体の統合や人材確保、高齢化等により、出店運営に支障が出てきている。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・令和7年1月に実施した「市内物産事業者等との意見交換会」において、「一関の物産と観光展」が抱えている問題点への解決策として①～⑤の意見が出されたことから、関係者との調整等を行いながら検討を進め、実施可能なものから対応していく。 ① 「一関の物産と観光展」への高校生等の派遣行事 ② LINEアカウント取得による観光物産情報等の発信 ③ ブース設置（アイキャッチ）の検討 ④ としま商人まつり出店回数の検討 ⑤ 市のブースでの宣伝方法の検討</p>
<p>○ドラゴンレール大船渡線観光活用推進事業費 【事業概要】 ・ＪＲ大船渡線の利用促進や観光客の誘客を図るため、ＪＲ大船渡線を活用した実証実験ツアーや開業100周年機運醸成事業を実施した。 【実施状況】 ・業務委託 2件 ・実証実験ツアー ▶地ビールフェスティバルと気仙沼市観光ツアー 参加者数 32人 ▶栗駒登山（紅葉）と気仙沼市観光ツアー 参加者数 12人 ・開業100周年機運醸成事業 ▶開業100周年に向けたPR活動の展開 横断幕、のぼり旗、手旗の作成 ▶気仙沼市と連携した開業100周年記念プレツアー 参加者数 42人</p>	<p>【成果・効果】 ・令和5年度のモニターツアー、令和6年度の実証実験により沿線地域の観光コンテンツを活用したツアー造成に繋がった。 ・大船渡線開業100周年の機運醸成が図られた。 【課題】 ・大船渡線の歴史、沿線の魅力など観光コンテンツの更なる磨き上げを行い首都圏等からの更なる誘客を図る必要がある。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・大船渡線開業100周年を契機に、来年度以降もツアー商品化に繋げる。 ・大船渡線は、終点の盛岡まで開通に10年を要していることから、引き続き100周年事業を継続して展開し、観光素材の一つとしてPRと誘客促進を図る。</p>			

令和6年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和6年度事業実施状況	成果・効果、課題・今後の方向性など
5 新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた観光施策	<p>①新たな観光資源の開拓と観光需要への対応</p> <p>②安全安心な受け入れ態勢の推進</p> <p>③ワーケーション・プレジャーの推進</p> <p>④インバウンドの推進</p> <p>⑤持続可能な観光の推進</p>	<p>(1)観光需要の把握と分析による既存資源の活用と新しい資源の創出</p> <p>(2)安全安心な受け入れ態勢の確立</p> <p>(3)一関型ワーケーション・プレジャーの構築</p> <p>(4)インバウンド推進のための受入環境整備や情報発信の強化</p> <p>(5)持続可能な観光の実現に向けた取組の推進</p>	<p>○インバウンド推進事業費 【事業概要】 ・台湾からの訪日外国人の誘客を進めるため、台湾催事へのブース出展やファムツアー等を実施し、当市観光等の魅力をPRした。 【実施状況】 地域観光新発見事業（観光庁補助事業） ・負担金 6,000,000円 ・主な事業 ▶大船渡線沿線商品造成、インバウンド向け観光コンテンツ販売 ▶大船渡線沿線への日台コラボアートスポットの設置 ▶日本東北遊業日2024出展 インバウンド推進に係る各種事業 ・事業費 4,325,860円 ・主な事業 ▶東北ファムツアーの実施 旅行代理店等14人参加 ▶観光PR動画撮影</p> <p>○食と農の観光PR事業費（再掲） 【事業概要】 ・一関の伝統的食文化である「もち食文化」の普及・継承と「もち食」を活用した観光振興を図った。 【実施状況】 ・事業費 4,728,443円（業務委託等） ・主な事業 ▶一関もち食推進会議の開催（年7回）（委託先：平泉・一関DMO） ▶もち本膳体験授業の実施（舞川小4～6年35人、大原小5～6年25人） ▶もちマイスター検定及びフォローアップ研修の実施（検定：14人、延202人、研修：15人、延100人）（委託先：平泉・一関DMO） ▶VJTM（訪日旅行商談会）への参加PR（委託先：平泉・一関DMO）</p>	<p>【成果・効果】 ・訪日リピーターの多い台湾市場へ向けて、大船渡線開業100周年を見据え、大船渡線などをコンテンツとしたプロモーションを実施したことにより、台湾からの誘客に繋がった。 【課題】 ・外国人が好む観光コンテンツの造成や魅力発信により、さらなる誘客に繋げる必要がある。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・観光PR動画を活用した情報発信など、インバウンド誘客を図る。 ・台湾をターゲットに文化、ニーズに沿ったプロモーションを展開する。</p> <p>【成果・効果】 ・特色ある「もち食文化」を観光資源として磨き上げ、市内外への周知に取り組んだことで、テレビや雑誌などメディアからの取材が増加してきている。 ・もち関連事業を通じて、当地方の「もち食文化」の伝承・普及が図られている。 【課題】 ・もちマイスターの育成と活動機会の創出。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・「もち食」を活用した事業を展開し、「もちの聖地いちのせき」の認知拡大や関連産業の促進を図る。</p>

■各地域の重点取り組み

一関地域

- 世界文化遺産「平泉」と市内観光地を結ぶ同遊観光ルートの定着と公共交通機関の利用促進
- 地元ガイドによる歴史の小道などの街散策
- 東京都豊島区、福島県三春町、宮城県仙台市などでの物産と観光展の開催
- 栗駒山（須川岳）、真湯・祭時地区への誘客と栗駒山麓周辺市村との連携の強化
- 一関温泉郷や各種イベントの情報発信

千厩地域

- 千厩酒のくら交流施設への誘客促進
- 夫婦石の情報発信のための事業実施
- 東京都世田谷区での物産と観光展の開催

川崎地域

- 東京都町田市、神奈川県川崎市での物産と観光展の開催
- 道の駅かわさきを活用した情報発信
- 農家民泊の受け入れ態勢の整備

花泉地域

- 花と泉の公園の情報発信
- 花や自然に特化したファミリー向けイベントの企画実施
- 東京都江東区での物産と観光展の開催

東山地域

- 狩鼻深への誘客と回遊対策の強化
- 東京都品川区での物産と観光展の開催

藤沢地域

- 館ヶ森収穫祭などのイベント開催・情報発信による館ヶ森エリアへの誘客推進
- 花や動物に特化したファミリー向けイベントの企画実施
- 東京都中央区での物産と観光展の開催
- 農家民泊の受け入れ態勢の整備

大東地域

- 地域内の景勝地や民俗資料館、芦東山記念館の情報発信
- 建設を進めている国道343号渋民バイパス「道の駅」を活用した誘客促進
- 神奈川県藤沢市での物産と観光展の開催

室根地域

- 室根山周辺で開催されるアウトドアスポーツの推進
- 室根山観光の情報発信と「森は海の恋人」植樹祭に係る気仙沼市との連携支援
- 埼玉県吉川市での物産と観光展の開催
- 和歌山県田辺市、和歌山県新宮市との熊野交流推進と室根神社特別大祭開催に係る連携の強化

■計画の推進

市民、観光関係団体等、DMO及び市が共に連携し、観光をめぐる環境の変化に対応した有効な取り組みを行っていくことが必要です。
このため、それぞれが担う役割を明確にし、本計画が着実に推進されるよう取り組みます。

■観光振興に関する施策の評価

年度ごとに一関市観光審議会において観光振興に関する施策の評価を行いながら実効性を高めていきます。

■観光統計の整備等

観光産業に携わる民間、市、団体などが適切な施策や事業を実施するため、各種観光統計の整備等の実施など、現状をより正確に把握するよう努めます。

■市民・観光関係団体等・DMO・市の役割

【市民】

- ・観光客に感動を呼び、リピーターとなっていけるようおもてなしの心を持っていやしの里へ観光客を迎え入れるため、住む場所、観光地の清掃活動や観光ガイド、各種イベントへの参加
- ・SNSなどを活用した情報発信による本市の魅力アップにつながる身近な活動

【DMO】

- ・行政や観光関係事業者をはじめとする様々な産業の事業者や地域住民等の多様な関係者を調整
- ・地域全体での戦略的な観光地域づくりと地域内経済循環の推進を主導

【観光関係団体等】

- ・観光客のニーズに対応した商品造成やイベントの企画
- ・地域内経済循環を高める視点を持って、各種サービスの向上やおもてなし力の向上、情報発信
- ・インバウンドを呼び込むためのWi-Fi環境の整備促進やキャッシュレス化、多言語への対応

【市】

- ・観光事業者、観光分野以外の関連事業者、市民等との密接な連携のもと、総合産業としての観光産業の振興策の策定
- ・地域資源を生かした観光産業の振興

一関市観光振興計画（令和4年度～令和8年度）概要版

発行：一関市 編集：一関市商工労働部観光物産課 〒021-8501 岩手県一関市竹山町7番2号
TEL 0191-21-2111 (代) FAX 0191-31-3037
<https://www.city.ichinoseki.wate.jp/>



概要版



一関市観光振興計画

(令和4年度～令和8年度)

一関市

どうして、みんなで観光に取り組む必要があるの？

観光は裾野の広い産業で、観光が盛り上がると、地場産品が消費されたり、新たに働く場所が増えたり、いちのせきの地域経済に大きな効果を生み出す産業だからです。

基本理念

恵まれた自然と悠久の歴史が育むいやしの里 いちのせき

本計画の 目標指標

令和元年度（2019年度）
 ・年間観光入込客数 約221万人回
 ・外国人観光入込客数 42,700人回
 ※参考指標 観光消費額 124億円

令和8年度（2026年度）目標値
 ・年間観光入込客数 221万人回
 ・外国人観光入込客数 42,700人回
 ※参考指標 観光消費額 124億円



指標の考え方
 新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度を基準とし、令和8年度までに基準年度への回復を目指すものです。

一関市観光振興計画

(令和4年度～令和8年度)

【一関市の観光の課題】

1 平泉との連携強化による一関ブランドの発信

- SNS等、各種情報発信ツールを活用した取組
- 効果的かつ効率的な事業の展開
- DMOを中心とした一関・平泉エリアにおける観光地域づくりの推進

2 観光資源の活用と情報提供の充実

- 各地域の祭りやイベントを活用した観光客の誘致
- パンフレットの見直し、集約、内容の精査と効果的な方策
- 観光施設の在り方の検討、見直し
- 関係者等が連携した適時適切な情報の発信
- 「もちのブランド化」構築のための一体的な機運の醸成
- 一関三大フェスティバル（全国もちフェスティバル、全国地ビールフェスティバル、一関・平泉バルーンフェスティバル）等、特徴あるイベントの充実、進展
- 体験型観光の構築と磨き上げ

3 観光に関する受け入れ態勢の整備

- おもてなし意識の醸成
- ボランティアガイドの養成・確保
- 多言語化への対応
- 二次交通網の維持、整備

4 広域連携の推進

- 近隣市町村等との連携による観光振興事業の実施

5 インバウンド誘客の推進

- 多言語化や広域連携の強化のほか、「農泊 食文化海外発信地域」の計画に基づいた取組の推進

基本方針

1 平泉との連携強化による「いちのせき」の発信

2 観光資源の活用と情報発信の充実

3 受け入れ態勢の整備

4 広域連携の推進

5 新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた観光施策

観光振興戦略

- ①平泉と主要観光地をつなぐルートを生かした一関ブランドの発信
- ②骨寺村荘園遺跡の活用や平泉とのゆかりを生かした観光振興
- ③観光地域づくりと地域内経済循環の推進

- ①地域資源の掘り起こしと活用
- ②観光情報の充実
- ③ニューツーリズムの推進
- ④栗駒山、室根山、館ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用
- ⑤誘客の推進
- ⑥外国人に対する情報発信の強化

- ①おもてなし意識の醸成とガイドの確保
- ②観光施設、公共施設等の受け入れ環境の整備
- ③観光ルートの整備
- ④二次交通網の構築

- ①近隣市町村や関係市町村との連携
- ②地域資源の相互利用

- ①新たな観光資源の開拓と観光需要への対応
- ②安全安心な受け入れ態勢の推進
- ③ワーケーション・プレジャーの推進
- ④インバウンドの推進
- ⑤持続可能な観光の推進

重点的取り組み

- (1) 世界文化遺産「平泉」と市内観光地を結ぶ周遊観光ルートの定着と公共交通機関の利用促進
- (2) 一関・平泉地域の特産品やもち食文化など特徴的な観光資源を活用した誘客事業の創出
- (3) 骨寺村荘園遺跡など平泉とのゆかりを生かした観光誘客の推進
- (4) 一般社団法人世界遺産平泉・一関DMOや観光関連事業者などとの連携による観光地域づくりと地域内経済循環の推進

- (1) 観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出
- (2) 「食・農・観光」の連携による魅力の発信
- (3) 四季を通じた特色あるイベントの充実
- (4) 観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化
- (5) 体験型観光の強化による農家民泊、教育旅行等の誘致
- (6) 須川・真湯・祭時地区、室根山、館ヶ森エリアのアウトドア資源等を活用した観光誘客の推進
- (7) 観光キャンペーン等と連動したプロモーションの強化

- (1) 研修会等によるおもてなし意識の醸成
- (2) 観光ガイドの養成や組織の育成支援等による受け入れ態勢の充実
- (3) 統一した案内標識の導入やWi-Fi環境の拡大等による受入環境の整備
- (4) スケールメリットを生かした観光ルートの整備・向上
- (5) 二次交通網の構築

- (1) 県境を越えた近隣市町村との連携の強化
- (2) 姉妹都市、友好都市との交流の推進
- (3) 広域的な周遊観光の創出による滞在型観光の促進

- (1) 観光需要の把握と分析による既存資源の活用と新しい資源の創出
- (2) 安全安心な受け入れ態勢の確立
- (3) 一関型ワーケーション・プレジャーの構築
- (4) インバウンド推進のための受け入れ環境整備や情報発信の強化
- (5) 持続可能な観光の実現に向けた取組の推進